

イプシロンの今後のあり方

(株)IHIエアロスペース
代表取締役社長
木内 重基

2013.10.21

- ◆ 基幹ロケットとしての位置付け
- ◆ 自律性確保と打上げ実績拡大について
- ◆ 実用システムに向けた開発
- ◆ まとめ

基幹ロケットとしての位置づけ

- ① 自律的な打上げ手段の確保(宇宙輸送システムの保有)。
 - 政府ミッションを自律性をもって打上げること。
- ② 打上げ実績の拡大。
 - 打上げ実績を拡大し、市場での信頼性を早期に獲得する。
- ③ 大小の基幹ロケットによる柔軟な衛星需要への対応。
 - 打上げ能力を2種類のロケットで効率的にカバー。
- ④ 「実用システム」として、海外ロケット同等のサービスの提供。

◆イプシロン打上げ後の総理談話

『我が国の宇宙輸送システムにおける自律性の確保、宇宙開発利用のより一層の進展、さらには将来の経済成長の一助に資すること』

自律性確保と打上げ実績拡大について

- ◆ 「① 政府ミッションの自律的打上げ」と「② 打上げ実績拡大」を進めるために必要な打上げ需要が不明瞭。
- ◆ 先ずはASNARO2とベトナムODA衛星（LOTUS1）の打上げをイプシロンで実施すべき。
 - 我が国が関与する確度の高い小型衛星需要の取り込み。
 - コスト効率を考慮し、イプシロン小改修で対応。

FY		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
イプシロン		E-X開発		▲ (SPRINT-A)		▲ (ERG)	打上げ需要が不明瞭				
				小改修							
衛星打上げ計画	経産省 小型地球 観測衛星						▲ ASNARO2 (レーダ) 実証機 (ロケット提案中)				
	ODA 案件						▲ ベトナム ODA#1 (ロケット提案中)				▲ ベトナム ODA#2

実用システムに向けた開発

- ◆ 「③大小の基幹ロケットによる柔軟な衛星需要への対応」
「④実用システムとしての対応」、については、今後の需要動向を見極めた上で、開発に着手し、対応を図るべき。
- ◆ 開発にあたっては新型基幹ロケットとのシナジー(コンポーネント、技術等の活用)を意識し、効率的な開発計画とすべき。

まとめ

- ◆ イプシロンロケットでは、自律性確保と打上げ実績拡大の観点で必要な需要が不明瞭である。従って、まず、ASNARO2、ベトナムODA衛星をイプシロンで打上げるべきである。また、これらの衛星打上げに対しては、コスト効率を考慮し、現状のイプシロンロケットの小改修により対応すべきである。
- ◆ イプシロンの実用システム化にあたっては、新型基幹ロケットとのシナジーを踏まえ、国内外の衛星動向を見極めた上で開発に着手すべきである。